

文化にえか



蟹江町文化協会

令和5年12月1日発行 第61号

神田 鐳藏

金融界の風雲児、世界的に著名な浮世絵コレクター

神田鐳藏は、明治五年（一八七二）須成村市場に生まれました。父は酒造業者であり儒者であった神田清三郎で屋号は紅葉屋でした。

明治二十四年の濃尾大震災後には、震災地方特別減税法案を成立させるため、議会通過運動に参加。独特の熱弁を振り、議会の容認を得ました。二十歳と言う若さながら、弁が立つと評判でした。一時は家業を継ぎましたが、明治二十六年名古屋株式取引所の仲買人となりました。

明治三十二年上京し、翌年、現物専門の紅葉屋を開店し、明治四十四年には国債証券の保護預りも行う紅葉屋銀行を設立、公債取引に力を注ぐとともに、東京証券取引所の設立に尽力しました。日露戦争のときには、海外からの資金調達に貢献し、また日露戦争後は株式市場で巨利を博しました。

大正七年（一九一八）神田銀行を設立し、倉庫、不動産、生命保険、信託などの多角経営を展開し成功しました。渋沢栄一の支援で国債輸入の三分の一が神田氏によるもので証券界では凄腕を發揮し、鬼才と呼ばれました。

一方、神奈川県にある逗子開成中学校が、七里ヶ浜ポート遭難事故で大きな負債を抱え、廃校の危機に陥ったとき、負債の一部を肩代わりし同校校長となり、学校の窮状を救いました。また、一九二〇年の農工貯蓄銀行破たんの際には負債を全額引き受け多くの預金者を救いました。

全盛期には、外国で人気を集めていた浮世絵を収集することで、海外流出を防ぎました。収集した「浮世絵風俗肉筆名作コレクション」は、別名神田コレクションと呼ばれる有名です。このように、金融界だけでなく、文化

や教育にも熱心で多方面に活躍しました。

しかし、関東大震災や金融恐慌により昭和二年業績不振となり破産しました。

渋沢栄一と神田鐳藏は経済界だけでなく、私生活でも親交が深く、鐳藏の結婚の仲人や息子の命名も渋沢がしました。昭和九年（一九三四）十二月八日癌のため、六十三歳で逝去しました。



神田氏家系碑建碑式

大正四年四月三日 渋沢栄一、愛知県知事、名古屋市長、名古屋市会議長、実業家、新聞記者など百数十名が、関西線名古屋駅から貸切の一等列車で、蟹江駅に到着。沿道には国旗、万国旗、赤提灯、村の老若男女の万歳などの歓迎の中、自動車や数十台の人力車で須成に到着しました。善敬寺隣りに整備した公園の式場に

来賓一同が着席、神田鐳藏夫妻が一條の綱を引き「神田氏家系碑」が除幕されました。

須成善敬寺境内にある神田氏家系碑の碑面の揮毫は、渋沢栄一によるものです。





文化協会会長
加藤 俊男

文化芸術は、夢と感動、明るい希望と
勇氣、人と人との絆など多様な価値観を
共有する創造性あふれる社会を築くこ
とができます。

蟹江町文化協会は、昭和五十三年に発
足、先輩諸氏や皆さんが伝統文化を継承
してこられたことに感謝を申し上げま
す。

設立四十八周年を迎え、生活様式や価
値観の多様化、指導者や会員の高齢化な
どで、会員数の減少が続ぎ、新規会員や
若年層の文化協会への加入促進が緊急
の課題です。

人生百年時代に文化芸術は、町民憲章
にある「文化の香り高い町づくり」に人
を動かす大きな力があり、生きる喜びを
与えてくれます。

文化協会は、各部門や団体が、日々の
研鑽・努力の成果を内外に発表会を開催
しています。また、愛知大学や近くの高
校との協働、「かに文化」の発行や研修
旅行などを開催し、楽しく文化活動をし
ています。

文化・芸能活動に興味をお持ちの団体
や愛好者の皆様の文化協会入会を、いつ
でもお待ちしております。

結びに、皆様方のご健康とご多幸を祈
り、教育委員会や関係者各位の一層のご
指導、ご支援を心からお願ひして、ご挨拶
といたします。



蟹江町長
横江 淳一

かに文化第六十一号の発刊に
あたり、一言ご挨拶申し上げます。

蟹江町文化協会役員並びに会員
の皆様におかれましては、日頃よ
り町政全般にわたりご理解とご協
力をいただいておりますことに、
心より感謝いたします。

さて、本年五月八日から新型コ
ロナウイルス感染症が「五類感染
症」へと移行し、会員皆様の活動事
業についても、これまでのコロナ
禍による影響等をほとんど受ける
ことなく、無事に通常開催ができ
たことと思います。

ノーマスクな日常生活が戻りつ
つある中、行政といたしましては、
蟹江町の魅力や歴史をより多くの
方に伝えるため、各種イベント及
び事業をフルスペックで展開して
おり、今こそ改めて「文化」を積極
的に対外へ発信していく絶好の機
会になるのではないかと感じると
共に、文化振興のため尽力する所
存であります。

これからも、蟹江町文化協会会
員の皆様の一層のご理解とご
協力をお願いするとともに、役員
並びに会員の皆様のご健勝とご多
幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさ
せていただきます。

舞踊部門

今年度は五月十四日(日)蟹江中央公民館
にて、第十八回「蟹江おどり」を実施しま
した。通常形式での部門発表会の開催は三
年振りで、たくさんのお客さまにお出かけ
頂き、出演者一同、感慨もひとしおでした。
稽古の成果を発表する舞台では、ご覧頂
いたお客さまからの拍手が何よりの喜びで
す。私共も、ご来場頂いた皆さまに全ての
演目をお楽しみ頂けるよう、上演時間をコ
ンパクトにまとめ、幕間にも詳しい解説を
取り入れるなど工夫を凝らしております。

現在、舞踊部門には、ダンス・新舞踊・
日本舞踊・フラダンス・太極拳の団体がご
ざいます。舞踊部門のチーム力で素敵な舞
台づくりを目指しておりますので、皆さま
のご声援をお願い申し上げます。



技術や芸を磨き、人とひととの出会いや生涯学習などの場として、人生を楽しみましょう。

美術部門
書・写真・絵画
文字アート・陶芸
フラワーアレンジメント

文学歴史部門
俳句

茶華道部門
茶華道

技芸部門
手芸・機織

囲碁部門
囲碁

洋楽部門
吹奏楽・ピアノ
コーラス
ゴスペル・オカリナ
音楽アンサンブル

邦楽部門
箏曲・大正琴
太鼓

詩吟部門
詩吟

舞踊部門
日本舞踊・ダンス
太極拳・フラダンス
新舞踊・ヨガ

蟹江町文化協会 会員募集

団体加入は、蟹江町在住・在勤・在学など主体に5名以上、
個人入会ご希望の方は、
文化協会加入団体一覧表にある、
各種団体代表者または、
蟹江町教育委員会生涯学習課
(☎95-1111代)まで

第三十九回 総合美術展

第三十九回総合美術展を、五月二十七日(土)二十八日(日)蟹江町体育館で書道、写真、水彩画、文字アート、陶芸、フラワーアレンジメント、俳句、手芸、機織の各団体と特別参加の津島東高校写真部の作品展を開催しました。
研修室では、「お茶を楽しむ会」が数年ぶりに、文字アートや津島東高校・南陽高校茶道部のご支援を頂き茶席を開催しました。今回は特別協賛で、中部奇術連合会の「マジックショー」を開催しました。



第四十二回 邦楽の集い

五月二十八日(日)蟹江中央公民館にて、「第四十二回邦楽の集い」を開催しました。
箏と尺八の二重奏、大正琴、迫力ある和太鼓など邦楽の魅力を発表しました。今年ゲストに尺八演奏家の岩田恭彦・昭彦ご兄弟をお迎えし、竹の音色をたっぷり皆さんに楽しんでいただきました。



第43回 蟹江音楽祭 ~洋楽部門~

6月25日(日)午後1時から蟹江中央公民館で「第43回蟹江音楽祭」を開催しました。出演は6団体でした。始めに蟹江アンサンブルソサエティが今回初出演で管楽器の素敵なグループ演奏を披露しました。続いてピアノ、コーラス団体ではピアノ演奏、合唱に加え可愛い子どもさんの唄、器楽合奏がありました。オカリナグループそよかぜ、蟹江吹奏楽団も親しみのある曲目に魅力的な演奏で会場を盛り上げていました。当日はお天気もよく家族や沢山の友達のみなさんに来て頂き、会員の皆さんは日頃の練習成果を一生懸命演奏しました。新しい会員さんの入会をお待ちしています。



第四十三回
詩吟と剣詩舞発表会

七月十六日(日)午後一時三十分から「第四十三回詩吟と剣詩舞発表会」を蟹江中央公民館にて開催しました。

今回は新型コロナウイルス感染症が第五類に移行して最初の発表会となり、会員一同、日頃の練習の成果を一生懸命発揮しました。

また、県立稲沢緑風館高校の卒業生の方や現役の生徒による詩舞剣舞も華やかで見ている側に元気を与えてくれる演技でした。

今後も詩吟を通じて仲間同士団結して、明るく楽しい「詩吟と剣詩舞発表会」を続けていきたいと思っております。

興味のある方の入会をお待ちしています。



囲碁便り

蟹江町囲碁大会を、春は五月二十一日(日)に十四人参加して、秋は十月二十二日(日)に十五人参加して公民館和室で行いました。

三グループに分け、三試合を行い各グループの優勝者を表彰しました。

囲碁は、頭脳と精神力の一手一手、白と黒の碁石による総力戦です。勝つても奢らず、敗者をいたわる思いやりの絆で楽しい大会でした。

囲碁に興味のある方は公民館和室の月例会を訪ねてください。お待ちしております。



文協だより

新員 茶華道 「茶華道を楽しむ会」

楽しくお茶を点てたり、お花を飾ったりして、気軽に茶華道に触れることができます。

今年度は、五月二十八日の総合美術展と、十一月五日の蟹江町文化祭に蟹江中央公民館研修室で呈茶会を実施しました。



美術展は、津島東高校、南陽高校の茶華道部文化祭は愛知大学からタイの留学生におもてなしの手助けをしてもらい、話題となりました。お気軽に茶華道を楽しみたい方、ぜひ、ご入会を！

新員 新舞踊「ひなぎくの会」

民謡や歌謡曲に合わせて役になりきり、心を込めて踊ります。

足・腰・身体全体を十分使いますので、良い運動になります。

音楽に合わせて、非日常感が味わえ、発表会でお披露目できます。

● 練習日 随時



文化交流会

七月二日(日)蟹江中央公民館にて「生涯学習まちづくり推進町民大会」が開催されました。

第二部で沖縄県読谷村との文化交流会があり、箏曲伊藤玲子社中が参加しました。

読谷村儀間自治会子供会の琉球舞踊と、お箏の「六段の調」を楽しみました。



第五十六回 蟹江町文化祭

十一月四日(土)・五日(日)展示の部が蟹江町体育館で、芸能の部が蟹江中央公民館で開催されました。

日ごろ丹精込めた作品展示や、練習の成果を舞台で発表しました。

呈茶席は「お茶を楽しむ会」と愛知大学留学生の国際文化交流を図りました。

多くの町民が鑑賞され、芸術文化に親しみつくりと文化協会加入促進をお願いしました。

6回 蟹江町文化祭



蟹江町文化協会役員

名 誉 顧 問	横江 淳一
"	水野 智見
"	服部 英生
相 談 役	藤田 昭子
"	佐藤 篤松
会 長	加藤 俊男
副 会 長	服部 大子
"	伊藤 吟雪
常任理事(邦楽)	伊藤 玲子
" (邦楽)	松岡 隅夫
" (詩吟)	大河内正博
理 事(技 芸)	鈴木 恵子
" (茶華道)	志治 市義
" (囲 碁)	成瀬 光彦
" (舞 踊)	花柳貴人生
監 事(文学歴史)	山田 豊志
" (美 術)	高阪 直美

芭蕉が、船町川湊から桑名に下った「舟下り」に思いを馳せ、大垣と桑名を結ぶ水運の拠点として栄えた舟町川湊や住吉灯台などガイドボラン

午後、松尾芭蕉が江戸深川を旅立ち、大垣で旅を終えた「結びの地大垣」を散策。芭蕉は大垣に幾度か訪れ、大垣俳壇に新風を吹き込み日常生活が旅であると美濃俳壇の基礎を築き、多くの俳人を育みました。

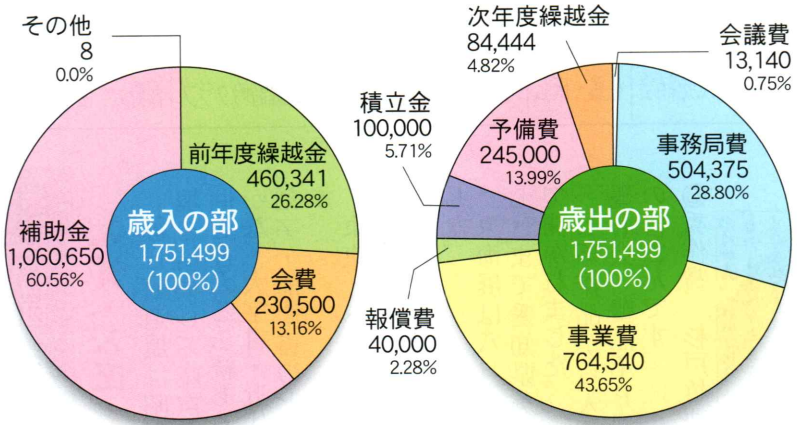
朝食は「和食処・五右衛門」で御膳料理を満喫しました。

令和五年度、文化協会研修を十一月十三日(月)開催しました。

文化協会研修
大垣城、奥の細道結びの地めぐり



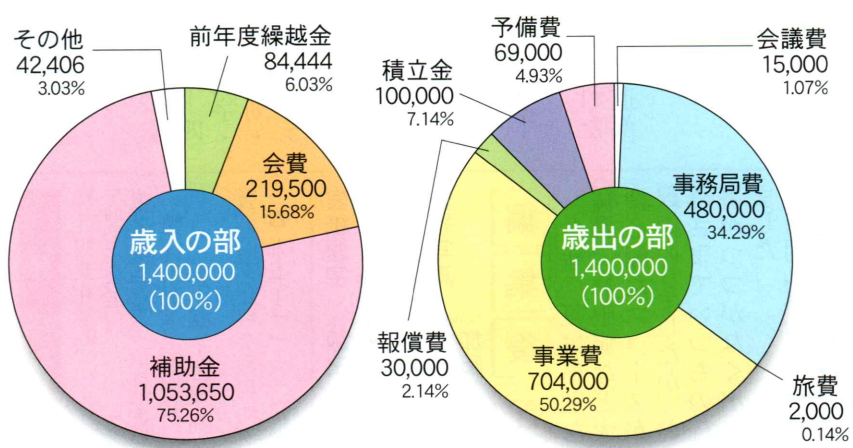
ティアの説明に感動しました。木曾三川の水害から守る輪中館など、水の都・大垣の歴史と文化が息づき、芭蕉と元禄の街に往時のよすがを偲べた研修でした。



令和四年度 文化協会決算

令和五年度 文化協会 総会報告

令和五年四月十五日(土)総会において文化協会加入団体代表者が出席し、加藤会長挨拶のあと、令和四年度事業報告及び決算が報告され、監事による監査報告、令和五年度事業計画及び予算案について協議され、審議のうえ議決されました。



令和五年度 文化協会予算



